



# 牛乳の生産量減少 コメ、野菜に病害虫

# 酷暑 農林業に影響



酷暑で牛が夏バテし、乳量が減っている＝竹田市久住町白丹

「日を浴びて甘みが強く  
なっている。生畜は順調だ」  
宇佐市安心院町平山の農  
圃。皮ごと食べられる人気  
のアドゥ「シャインマスカ  
ット」を55坪で栽培する小  
野次信さん(73)は、口元を  
緩めた。晴天は恵みとなっ  
ている。

## 果物などには恩恵も

酷暑が県内の農林業にさまざまな影響を及ぼしている。強い日差しで甘さを増す果物などの農産物にはプラスになっているものの、牛乳は生産量が落ち、コメや野菜は高温や乾燥を好む病害虫が発生して被害が出ている。大分地方気象台によると、暑さは9月下旬まで続く見通し。生産者は「まだまだ気を抜けない」と暑さ対策に余念がない。

「量を約1割減った。  
志賀取締役は「気温が20  
度以上だとストレスにな  
り、病気を発症することも  
ある」と警戒を続ける。  
約70戸が入る県酪農協に  
よると、7月に県内の農家

と表情を曇らせる。  
毎日2回の搾乳で1日当  
たり3・6トを生産する。  
乳牛は暑さに弱い。畜舎に  
は噴霧器や送風機を設けて  
室温を下げる対策をしてい  
るものの、7、8月の生産

量は約1割減った。  
志賀取締役は「気温が20  
度以上だとストレスにな  
り、病気を発症することも  
ある」と警戒を続ける。  
約70戸が入る県酪農協に  
よると、7月に県内の農家

から集荷した生乳は5・25  
8トで、前年同月に比べ4  
・6％減った。釘宮修酪農  
部長兼業務部長(55)は「暑  
さが確実に影響している」  
と語る。

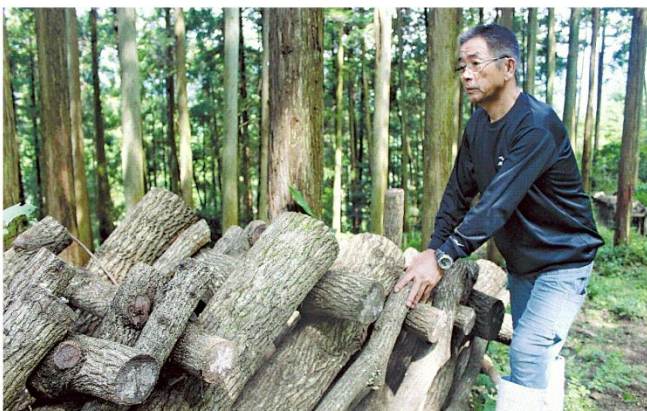
農作物に被害をもたらす  
病害虫も増えている。水稻  
の養分を吸うカメムシ類、  
ピーマンの花や実を食べる  
アザミウマ類が過去10年間  
で最も多く発生している  
として、県は今月、県全域に  
注意報を出した。

秋以降に収穫を迎える農  
林業の現場も「暑さがいつ  
まで続くのか」と気をもん  
でいる。

「原山シイタケの「秋子」  
は10、12月にかけて生育す  
る。臼杵市岳谷の広瀬誠さん  
(62)は10年前に栽培場所  
を山の斜面からスギ、ヒノ  
キの林の中に移した。日が  
当たってシイタケ菌が死ぬ  
のを避けるためだ。

広瀬さんは「草刈りで風  
通しを良くするなど、今か  
ら小まめに手入れをして乗  
り越えるしかない」と話す。  
県地域農業振興課は「猛  
暑による被害の全容はまだ  
つかめていない。それぞれ  
の品目に必要な対処をして  
ほしい」と呼びかけた。

(佐藤章史)



林に移したシイタケの原木を確認する広瀬誠さん。臼杵市岳谷

×  
モ

大分地方気象台によ  
ると、県内の7月の平  
均気温は主な観測地点  
5カ所(由津、日田、大分、竹田、  
佐伯)のうち、中津を除く4カ所  
で平年より高かった。日田市の最  
高気温は平均33・5度で、1・2  
度大分市は31・8度、0・9度  
それぞれ高かった。8月上旬、中  
も平年より高い地点が多かった。  
9月10日までの福岡管区気象台の  
1カ月予報では、九州北部地方の  
平均気温は平年より高い見込み。

大分合同新聞 2023年8月30日(水) 朝刊 23面

〔問①〕印象に残った箇所に~~~~線、主題(筆者が一番伝えたい箇所)に——線を引こう。

〔問②〕感想や意見などを書いてみよう。

※問①・問②自由記述

〔問③〕漢字の読みを書こう。

- ①搾乳 ( さくにゅう )      ②噴霧器 ( ふんむき )      ③警戒 ( けいかい )
- ④養分 ( ようぶん )      ⑤栽培 ( さいばい )

〔問④〕次の意味を持つ言葉を記事の中から探してみよう。

- ①緊張した状態を続けること。 ( 気を抜けない )
- ②ほかのことを考えず、一つのこと熱中すること。 ( 余念がない )
- ③喜びを隠しきれずほほ笑む、笑顔になること。 ( 口元を緩めた )
- ④心配してやきもちすること。 ( 気をもんでいる )